

佐賀市 4 歴史探訪

りゅうたいじ けんちくぶざい 龍泰寺の建築部材

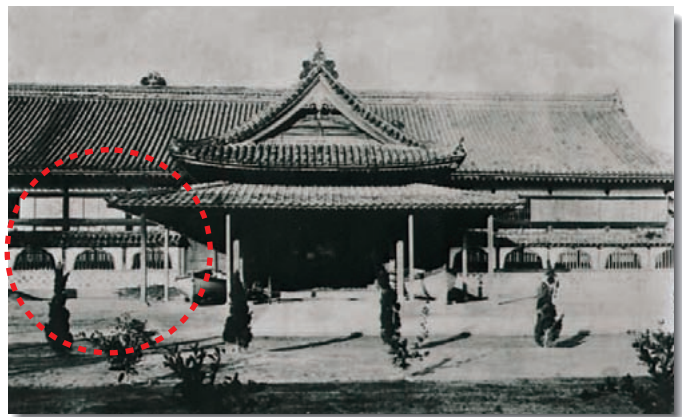
龍泰寺は永禄年中(16世紀中頃)に龍造寺隆信が、一族の菩提寺として建立したもので、寺名には「龍造寺安泰」の意味が込められています。

本堂と位牌所、庫裏は大正から昭和初期にかけて建築されました。これらの建物は、佐賀城本丸の玄関・式台を解体移築して、その部材が用いられているものといわれていました。しかし、昨年行われた調査によると、部材には転用材が使用されているのは確認できるが、棟札などの直接資料が発見できなかったため、佐賀城本丸建物の部材を転用したのかどうか判定はできないとのことでした。今後、龍泰寺に関わる文献資料の発見や本丸建物の部材を使ったとの証言が得られれば確定できるとのことです。

現在の龍泰寺の写真と佐賀城本丸の玄関・式台の写真を見比べてください。皆さんはどう思われますか。

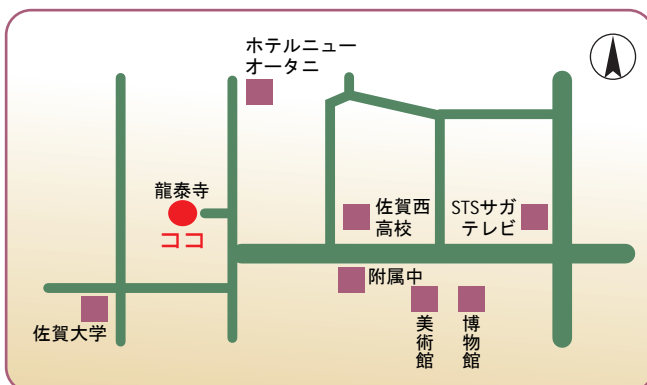


▲龍泰寺の庫裏



▲佐賀城本丸の玄関・式台(大正年間に解体された)

- ※1 庫裏…寺の台所、住職や家族の居間。
- ※2 式台…表座敷と玄関などとの間に設け、客に対して送迎のあいさつをする部屋。
- ※3 棟札…棟上げの時、工事の由緒、建築の年月、建築者などを記し、棟木に打ちつける札。



市営バス佐大前下車 徒歩3分

一口メモ 龍泰寺の敷地は、もともと中世の豪族、少弐氏の居城である「与賀城」があったところといわれています。城の正確な範囲は分かっていませんが、龍泰寺を中心とした広がり、北側にある与賀神社は、与賀城の鬼門の鎮守とされていました。

また、龍泰寺山門の東側には大隈重信の墓があります。